

第2学年 音楽科学習指導案

日時 平成23年10月28日(金) 5校時
学級 2年C組
(男子20名、女子16名、計36名)
場所 一関市立千厩中学校第1音楽室
授業者 教諭 岩 淵 富士子

1 題材名 キーボードで和音やリズムを工夫しよう

2 題材について

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領第2学年及び第3学年A表現(2)のA「曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。」イ「器楽の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。」から設定する。

また、共通事項A「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じること。」のうち、以下の点について焦点化を図って設定する。

○ リズム、旋律、テクスチャについて、それぞれの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じること。

この題材では、旋律と和音やリズムなどのかかわりを意識し、和音やリズムを工夫して音楽を表現することの楽しさを感じ取り、器楽表現を工夫することがねらいである。器楽表現をする中で主要三和音や音符についての理解をしていながら、伴奏やアンサンブルの表現が、様々な要素の働きによって曲想の変化や音楽の表情が多様に変化することに気づかせていきたい。

(2) 生徒について

生徒は、音や音楽に対して多彩なイメージをもち意欲的に取り組める。1学年においては、器楽で「声部の役割を感じながらアンサンブルしよう」を学習してきた。またリズム創作では、基本的なリズムや様々な楽器の奏法を学び、表現の仕方を工夫して演奏することを学習してきた。それにより、リズム譜を書いたり演奏したりすることは身につけてきている。しかし、積極的に音楽のよさや美しさを感じ取って表現する力は十分に身につけていない。

そこで、この題材では、旋律と和音やリズムのかかわり合いを取り上げ、和音やリズムを工夫して音楽を表現することを通して、音楽のよさや美しさを感じ取りながら楽しく鍵盤楽器に親しめるようにする必要がある。

(3) 指導について

教材曲『今日から明日へ』の旋律の一部に、キーボードを用いて旋律にふさわしい伴奏を工夫して演奏させる。そのため、伴奏を工夫する際にヒントとなる伴奏サンプルを提示しながら、様々な音楽要素の働きによって曲想が変化したり音楽の表情が多様に変化したりすることを理解させたい。

指導にあたっては、音楽(伴奏)の仕組みについて響きを通して感じ取らせる。その際「和音カード」を示すことによって旋律にあった和音をさがす手がかりとする。そして、鍵盤楽器の基礎的な奏法を生かして、旋律に合わせた伴奏の工夫に取り組ませる。この活動では、複数の「伴奏リズムパターン」も提示しながら旋律にふさわしい伴奏を工夫する活動を通して思考・判断の場面をつくっていききたい。

また、自分が発表したり友達の工夫した演奏を聴いたりすることにより、それぞれの良さについて、自分なりの思いや意図をもって説明できるような場面をつくっていく。このことによって同じ楽曲でも工夫点が様々なことに気づき、他のグループのよさを取り入れながら、自分たちの演奏をよりよいものに創り上げていこうとする態度を育てたいと考える。

3 音楽科における「活用を意識した学習活動」のとらえ

音楽科においては、以下のような学習活動を、「活用を意識した学習活動」ととらえる。

- (1) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽表現を工夫する活動
- (2) 感じ取ったことを生かして、そのように演奏するかについて思いや意図を表す活動
- (3) 音楽の多様性などを理解するなどして、解釈したり考えたりして、根拠をもって批評する活動（鑑賞分野）

4 題材の指導目標

(1) 【音楽への関心・意欲・態度】

旋律と和音、リズムなどの働きが生み出す曲想や鍵盤楽器の基礎的な奏法に関心をもち、意欲的に音楽表現しようとしている。

(2) 【音楽表現の創意工夫】

旋律と和音、リズムなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつことができる。

(3) 【音楽表現の技能】

旋律にふさわしい和音やリズムを工夫し、鍵盤楽器の基礎的な奏法を生かしながら表現する技能を身につけている。

5 題材の指導計画（3時間扱い）

時間	学習内容	評価計画				「知識・技能の習得」の場面	「活用を意識した学習活動」の場面
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力		
第1時	『主人は冷たい土の中に』や『夢の世界を』の和音の聞き取り	◆『主人は冷たい土の中に』や『夢の世界を』の旋律と和音、リズムの働きに気づき、曲想を味わい、鍵盤楽器の基礎的な奏法に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	◆『主人は冷たい土の中に』や『夢の世界を』の旋律と和音、リズムなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。			○『主人は冷たい土の中に』の旋律に主要三和音の響きの変化を聴き取る。 ○旋律と和音、リズムの関わり、その働きをとらえる。	★『夢の世界を』の旋律にふさわしい和音の響きを感じ取ることができる。
第2時	『今日から明日へ』の和音やリズムの伴奏づけの工夫 【本時】		◆旋律と和音、リズムなどを知覚・感受しながら表現を工夫し、自分たちがつくった伴奏をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	◆和音やリズムを工夫し、自分たちのイメージと関わらせながら、鍵盤楽器の基礎的な奏法を生かして音楽表現する技能を身につけている。		○伴奏は低音と和音との組み合わせでできていることを理解する。 ○リズム伴奏譜に記入する。	★旋律と和音、リズムとのかかりを感じ取って、器楽表現をしている。 ★自分たちがつくったリズム伴奏をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

第 3 時	『今日から明日へ』のグループ発表会		◆自分たちで考えた音楽表現のために、基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身につけて演奏している。	○どのように発表したいか紹介できる。 ○仲間の工夫した発表を聴いて自分の言葉でまとめる。	★自分が工夫したいことや、班でつくった伴奏をどのように演奏するかについて思いや意図について発表したりまとめたりする。
-------------	-------------------	--	--	---	--

6 本時の指導

(1) 目標

- ① 和音やリズムを工夫し、自分たちのイメージと関わらせながら、鍵盤楽器の基礎的奏法を生かして表現する技能を身につけている。
- ② 旋律と和音、リズムなどを知覚・感受しながら表現を工夫し、自分たちがつくった伴奏をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

(2) 本時の構想

本時の授業では、まず前時の振り返りで、旋律、和音、リズムの働きを知覚・感受することを想起させ、既習曲『主人は冷たい土の中に』や『夢の世界を』で奏法、旋律の最初の和音、動きなど主要三和音についてポイントを確認する。

展開では、『今日から明日へ』の旋律の一部に、キーボードを用い、旋律にふさわしい低音と和音を選びリズムを工夫しながら学習プリントにまとめていく。グループは班毎とし、旋律・低音・伴奏とそれぞれ分担して協力しながら伴奏の工夫をさせる。様々な音楽要素の働きによって曲想の変化や音楽の表情が多様に変化することなど、実際に音を出して確かめながらとらえさせたい。

「活用を意識した学習活動の場面」としては、『主人は冷たい土の中に』の曲で演奏サンプルを提示しながら主要三和音について確認した上で、既習曲『今日から明日へ』とつなげたい。また、自分たちのイメージとかかわらせながら和音のリズムを工夫させる場面では、どんな演奏にしたいかグループで相互に話し合う学習活動を大切に、旋律と和音、リズムの働きに気づき特徴をとらえている生徒の発言を実際の音と結びつけながら学級全体で共有できるようにする。

(3) 本時の評価規準

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C:努力を要する生徒の手だて
音楽表現の 創意工夫	旋律と和音、リズムなどを知覚・感受しながら表現を工夫し、関わりについて、気づいたこと感じたことを具体的にとらえながら、自分たちがつくった伴奏をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	旋律と和音、リズムなどを知覚・感受しながら表現を工夫し、自分たちがつくった伴奏をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 評価①	できる場 面を部分的 に取り出し、 取り組ませ る。
音楽表現の 技能	和音やリズムを工夫し、自分たちのイメージと関わらせながら、鍵盤楽器の基礎的奏法を生かして表現する技能を身につけている。	和音やリズムを工夫し、鍵盤楽器の基礎的奏法を生かして表現する技能を身につけている。 評価②	

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点(◎)、活用の場面(★) 習得の場面(○)、評価(■)
導入 10分	1 前時の振り返り	1 旋律と和音・リズムの働き ・『主人は冷たい土の中に』の楽譜を見ながら確認	◎学習プリントでキーワードの確認 ○伴奏は低音と和音の組み合わせでできていることを理解することができる。
	2 学習課題の設定	2 学習課題を把握する。 【学習課題】 『今日から明日へ』に合う伴奏のリズムを工夫しよう	
展開 30分	3 グループ活動による 伴奏づけの工夫 (1) 分担 (2) 『今日から明日へ』 の低音ぎめ (3) 和音ぎめ (4) リズムの工夫	3 『今日から明日へ』の伴奏づけを自分たちのイメージに合うよう工夫する。 (1) 旋律・低音・和音のリズムを分担してつくっていく。 (2) 旋律に合う和音を考えながら低音を見つける。 (3) 話し合いをしながら和音を決めていく。 (4) 学習プリントにリズムの工夫について書く。 (5) リズムの工夫がわかるよう、ボードに記譜し修正していく。	◎旋律と和音、リズムとのかかわりを感じ取って、伴奏を工夫してつくる。 ◎「和音カード」を手がかりに、イメージに合った表現ができるよう巡回指導を行う。 ○リズム伴奏譜の記入ができる。 ■★旋律と和音、リズムなどを知覚・感受しながら表現を工夫し、自分たちがつくった伴奏をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。評価①(活用1) ◎響きを感じ合える演奏の仕方の工夫について考えられるよう、具体的な視点(出だし・音量のバランス等) 与えながら支援する
	4 中間発表	4 1つのグループが中間発表をして、表現工夫を聴き合う。	◎ボードの楽譜を利用しながら説明させる。 ■和音やリズムを工夫し、鍵盤楽器の基礎的奏法を生かして表現する技能を身につけている。 評価②
終結 10分	5 まとめ	5 発表したグループに対して気づいたことや、本時の自分たちの活動について学習プリントにまとめ発表する。	◎発表する時、学習のキーワードを入れる。
	6 次時の予告	6 次時は学級発表会を開くことを知る。	◎アドバイスをもらった班は、次回までに更に検討しより良い発表ができるよう工夫してくる。